

2020年度宮津市地域農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

本市は、京都府の北西部に位置し、市の総面積 172.74 km²のうち水田面積は約 500ha で、約 3.0%を占めている。

農家の経営の中心は水稻であるが、大部分の農家集落が中山間地域にあり経営規模が小さく、少量多品種生産が特徴であることから、水稻以外の作物についてはより収益性の高い作物の生産を増やしていく必要がある。

また、農家の高齢化も進んでおり、集落営農組織などの担い手の育成確保が重要な課題となっている。

2 作物ごとの取組方針等

市内の約 500ha（不作付地を含む。）の水田について、適地適作を基本として、産地交付金を有効に活用しながら、作物生産の維持・拡大を図るものとする。

（1）主食用米

需要動向を踏まえつつ、過去に特A評価を 10 回以上受けてきた「丹後産コシヒカリ」の生産を行うとともに、こだわりのある特別栽培米の作付を拡大するなど、付加価値の高い米作りを推進する。

一方で、市内の事業者や学校給食等での利用を増やすなど、地産地消を推進することにより、販路の拡大と多様化を図る。

水稻採種については、京都府内のコシヒカリ生産を支える種子の主要産地であり、引き続き生産を維持していく。

（2）非主食用米

ア 飼料用米

主食用米の需要減が見込まれる中、転作作物のひとつとして飼料用米の取組を推進する。また、飼料用米の生産拡大にあたっては、国からの産地交付金を活用する。

イ 米粉用米

地元実需者を中心に出荷し、生産の拡大を図っていくこととする。

ウ 新市場開拓用米

国が進める「コメ海外市場拡大戦略プロジェクト構想」に基づき、府の産地交付金を活用して、米の輸出に戦略的に取り組む生産者を支援する。

エ 加工用米

京都府のオリジナル品種である醸造用掛け米「京の輝き」を中心に、産地交付金、高収益作物等拡大加算及び転換作物拡大加算を活用しながら生産の拡大を図っていくこととする。

(3) 麦、大豆、飼料作物

大豆については、地元の加工グループとの連携により加工用原材料としての活用を図る。

飼料作物については、地元の畜産農家への出荷を中心に、栽培面積を確保する。

(4) そば

地元の加工グループへの出荷等により、現行の栽培面積を維持する。

(5) 高収益作物（園芸作物等）

特に「やまのいも」、「九条ねぎ」、「宮津太ねぎ」、「コギク」、「ストック」、「トルコギキョウ」、「ヒオウギ」、「京新清水とうがらし」、「蔬菜採種」を重点品目として拡大する。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	前年度の作付面積 (ha)	当年度の作付予定面積 (ha)	2020 年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	316.1	311.4	315.8
飼料用米	0.0	0.5	0.5
米粉用米	0.2	0.2	0.1
新市場開拓用米	0.0	0.1	0.1
加工用米	5.6	5.9	8.2
大豆	1.9	1.9	1.7
飼料作物	1.1	1.1	1.3
そば	0.8	0.8	0.8
その他地域振興作物	29.2	33.6	36.2
野菜	15.7	15.9	17.3
・ やまのいも	2.1	2.1	2.6
・ 九条ねぎ	0.6	0.7	0.7
・ 宮津太ねぎ	0.2	0.2	0.2
・ 京新清水とうがらし	0.1	0.1	0.2
・ その他	12.7	12.8	13.6
花き・花木	3.4	3.4	3.7
・ コギク	0.7	0.7	0.7
・ ストック	1.0	1.0	1.1
・ トルコギキョウ	0.1	0.1	0.3
・ ヒオウギ	0.3	0.3	0.4
・ その他	1.3	1.3	1.2
果樹	5.4	9.5	9.5
その他	4.7	4.8	5.7
・ 蔬菜採種	2.6	2.7	3.6
・ その他	2.1	2.1	2.1

4 課題解決に向けた取組及び目標

整理番号	対象作物	使途名	目標	前年度（実績）	目標値
1、2	やまのいも、九条ねぎ、宮津太ねぎ、コギク、ストック、トルコギキョウ、ヒオウギ、蔬菜採種、京新清水とうがらし【基幹作】 【二毛作】	産地づくり奨励助成	作付面積の拡大	(2019 年度) 769a	(2020 年度) 967a
3、4	トマト、ナス、きゅうり、キャベツ、たまねぎ、にんじん、ばれいしょ、にんにく、しょうが、ごぼう、落花生、レタス、ほうれん草、だいこん、はくさい、こまつな、いちご、小豆、オリーブ、醸造用ぶどう、さといも、かぼちゃ、しそ、かんしょ【基幹作】 【二毛作】	産地づくり奨励助成	作付面積の拡大	(2019 年度) 1439a	(2020 年度) 1913a
5、6	整理番号 1～4 の対象作物【基幹作】 【二毛作】	担い手への作付加算	作付面積の拡大	(2019 年度) 1531a	(2020 年度) 1653a
7	加工用米（京の輝き）	高収益作物等拡大加算 転換作物拡大加算	作付面積の拡大	(2019 年度) 562a	(2020 年度) 738a

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は 3 年以内としてください。

5 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり

別紙

産地交付金の活用方法の明細

1. 地域農業再生協議会名

宮津市地域農業再生協議会

2. 活用予定額の総括表

(単位:円)

協議会等名	配分枠 (A+B)		活用予定額
	当初配分 (A)	追加配分 (B)	
宮津市地域農業再生協議会	3,880,000	3,880,000	3,859,200

(注)追加配分が未定の段階にあっては、該当箇所を空欄により作成することとします。

3. 活用方法

配分枠

3,880,000円

整理番号	使途 ※1	作期等 ※2	単価① (円/10a)	面積(a単位)※3												合計 ② ※5	所要額 ①×② (円)			
				戦略作物							新市場開拓用米	そば	なたね	高収益作物			雑穀	その他		
				麦	大豆	飼料作物	米粉用米	飼料用米	WCS用稻	加工用米				野菜	花き・花木	果樹	その他の高収益作物			
1	産地づくり奨励助成	1	36,000											191	139			237	567	2,041,200
2	産地づくり奨励助成(二毛作)	2	36,000											16	45				61	219,600
3	産地づくり奨励助成	1	12,000											478		13		101	592	710,400
4	産地づくり奨励助成(二毛作)	2	12,000											57				23	80	96,000
5	担い手への作付加算	1	9,000											394	124	13		234	765	688,500
6	担い手への作付加算(二毛作)	2	9,000											73	30			12	115	103,500
7	高収益作物等拡大加算 転換作物拡大加算	1	上限 45,000円															0	0	
合計(基幹)※4			実面積											669	139	13		338	1,159	※6
合計(二毛作)※4			実面積											73	45			23	141	3,859,200

※1 二毛作及び耕畜連携を対象とする使途は、他の設定と分けて記入し、二毛作の場合は使途の名称に「〇〇〇(二毛作)」、耕畜連携の場合は使途の名称に「〇〇〇(耕畜連携)」と記入してください。

ただし、二毛作及び耕畜連携の支援の範囲は任意に設定することができるものとします。

なお、耕畜連携で二毛作も対象とする場合は、他の設定と分けて記入し、使途の名称に「〇〇〇(耕畜連携・二毛作)」と記入してください。

※2 「作期等」は、基幹作を対象とする使途は「1」、二毛作を対象とする使途は「2」、耕畜連携で基幹作を対象とする使途は「3」、耕畜連携で二毛作を対象とする使途は「4」と記入してください。

※3 「面積」は、当初配分により支援を行う使途について記入し、追加配分により支援を行う使途については、追加配分額が未定の段階にあっては空欄してください。

※4 「合計(基幹)の実面積」は、基幹作を対象とした設定の実面積を記入し、「合計(二毛作)の実面積」は、二毛作を対象とした設定の実面積を記入してください。

また、「合計②」欄は、基幹作、二毛作それぞれの実面積の合計を記入してください。

※5 ②の合計は、各使途の合計面積を記入してください。

※6 所要額欄の二重枠には、所要額の合計を記入してください。

(注)使途ごとに「産地交付金の活用方法の明細(個票)」を添付してください。

4. 追加配分を受けた場合の調整方法

- ・整理番号1、2、3、4、5、6
→取組面積に応じて、単価を一律に調整する(+3000円/10aを上限とする。)。
- ・高収益作物等拡大加算及び転換作物拡大加算の調整があった場合は、個票7にて活用する。
→減額調整時は配分額／計画面積(100円未満切り捨て)で単価調整する。
更に残余額がある場合は、不足する整理番号に一律に活用する。

5. 所要額が配分枠を超過した場合の調整方法

所要額が配分額を超過する場合は、計画単価を同率(1%未満は切り捨て)で減額して単価調整を行う。
また、調整後単価の交付単位は10円単位とし、端数は切り捨てる。

6. 高収益作物について

小豆、蔬菜採種

注1 産地交付金で支援する作物のうち、高収益作物に該当する作物名(野菜、花き・花木、果樹除く)を記載してください。

注2 収益性のわかるデータを添付してください。